

(日本語概要【Higher wages in exporters and multinational firms】)

本研究では、日本における輸出企業、多国籍企業（MNE）、外資系企業の賃金が高いかどうかを、雇用者-被雇用者接続データを用いて調査している。その結果、外資系と内資系の多国籍企業の賃金が最も高く、多国籍ではない輸出企業の賃金が多国籍ではない非輸出企業の賃金より高いことがわかった。多国籍企業が最も賃金が高く、輸出企業が純国内企業よりも高いという賃金の順序付けは、標準的な企業異質性モデルの生産性の順序付けと一致する。観測可能な工場や労働者の特性をコントロールした後でも、この賃金の順序付けは変わらない。さらに、外資系企業の残余賃金プレミアムは、非多国籍輸出企業や国内資本の多国籍企業よりもはるかに高いことを発見した。また、分位回帰の結果、外国企業の残余賃金プレミアムは賃金分布の高分位で大きくなることが明らかになったが、国内所有の企業については同様の傾向は見いだせなかった。最後に、本研究では、女性労働者は男性労働者よりも外資系企業でより大きな賃金プレミアムを受け取っていることを明らかにした。